

持続可能な都市空間づくり（「グランドデザイン」）（素案）

自然と調和し、高質な機能が集約された活力ある杜の都の構築に向けて、次の都市のかたちを目指す。

1 ゾーニング

(1)自然環境保全ゾーン

貴重な自然資源があり、自然公園法、宮城県自然環境保全条例などの対象地を、今後もより一層自然環境の保全を図る「自然環境保全ゾーン」とする

(2)集落・里山・田園ゾーン

現況が主に森林や農地・里山など二次的な自然や生産のための緑地、農業を主とした集落などによって形成される地域を、今後も連続的かつ一体的な保全を図る「集落・里山・田園ゾーン」とする

(3)市街地ゾーン

現状で一定程度の人口の集積や商業・業務等の都市機能の集積が進んでいる地域を、都心や広域拠点、都市軸などを配置し、都市機能の一層の高度化や生活に必要な機能の充実などを図るべき「市街地ゾーン」とする

さらに、「市街地ゾーン」を地域特性に応じた、以下の3つの区域に区分する

1)鉄道沿線区域

・東西・南北の地下鉄や、JR線沿線の駅徒歩圏の地域を、生活を支える都市機能の充実を図る「鉄道沿線区域」とする

2)工業・流通・研究区域

・仙台港周辺地区、青葉山地区、泉北部地区等の地域を産業機能や研究開発機能の集積を図る「工業・流通・研究区域」とする

3)郊外区域

・市街地ゾーンのうち、鉄道沿線区域、工業・流通・研究区域以外の地域を、生活機能の維持や良好な環境形成を図る「郊外区域」とする

2 都心と拠点の配置

2本の地下鉄とJR線が交わり、すでに高度な機能集積がある仙台駅周辺の地域については、東北や都市圏を支える高度な都市機能の集積をさらに進める「都心」とする。

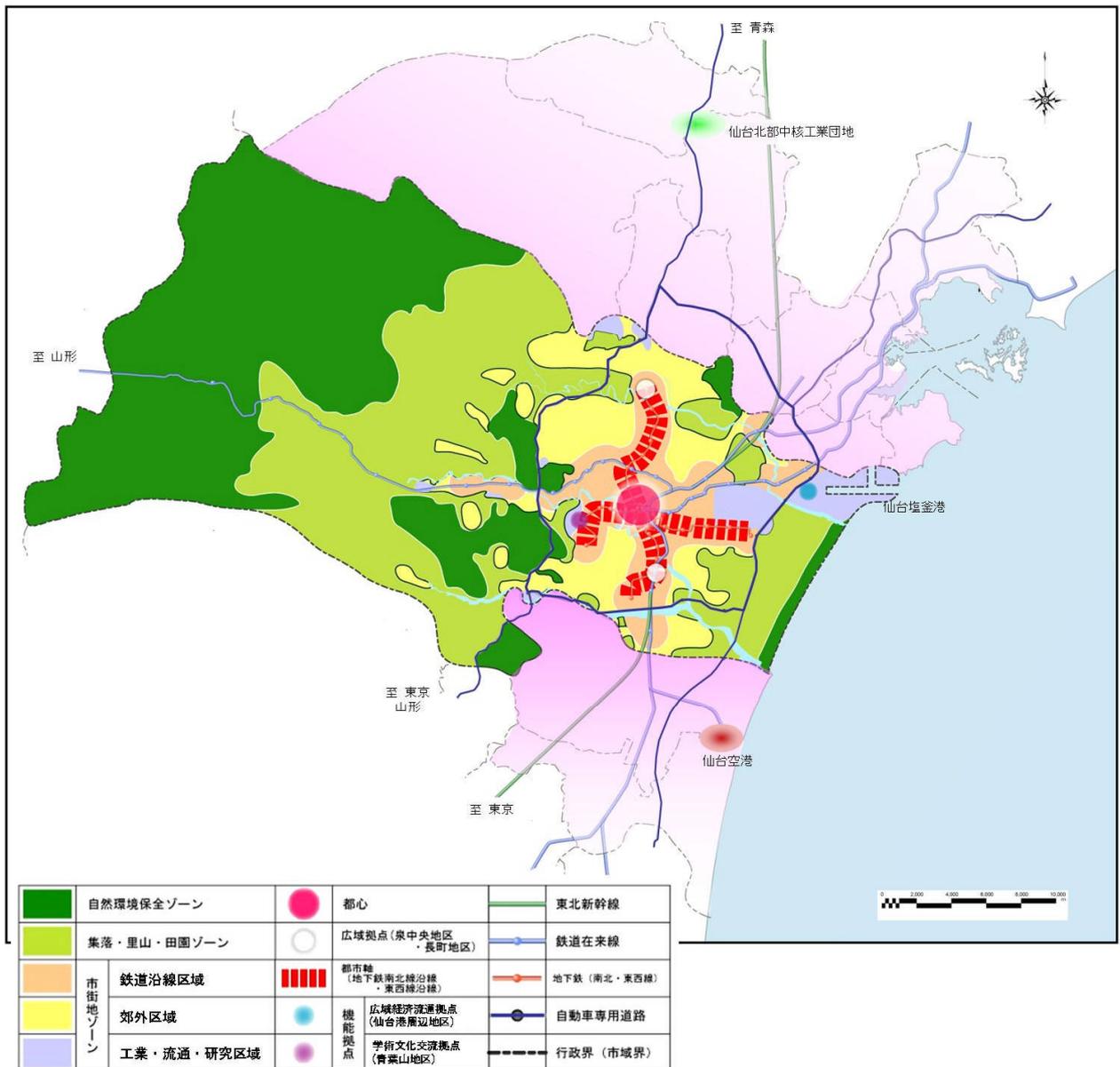
また、泉中央地区および長町地区については、仙台都市圏の南北の生活や活動を支える、魅力的で個性ある都市機能を配置する「広域拠点」とする。

さらに機能拠点として、仙台港周辺に広域的な経済・物流・交流機能の集積を図る「広域経済流通拠点」、青葉山地区に国際的な学術・文化・交流機能の集積を図る「学術文化交流拠点」を配置する。

3 都市軸

地下鉄東西線沿線に、地域特性や多様な資源を生かした都市機能の集積を図る「東西軸」を形成する。また地下鉄南北線の沿線には、広域拠点を補完する都市機能の集積を進めるとともに、すでに集積・配置されている都市機能の再生・強化を図る「南北軸」を形成する。この2本の軸を、都心・拠点等と連携して機能集約型の都市構造の基軸となり、新たな価値を生み出していく「都市軸」とする。

図1：目指す都市のかたち(都市空間構想図)



4 都市内交通体系

地下鉄東西線の整備を推進し、地下鉄南北線およびJR線と合わせて鉄道ネットワークとする

鉄道駅へのバス等の結節を進め、鉄道の利用圏域を広げるとともに、鉄道が利用しにくい北西部の住居地域等において、快速バスを導入する

公共交通サービスが不十分な地域において、地域に根ざした持続可能な生活交通の確保に向けた取り組みを進める

図2：都市内交通体系のイメージ

